

閉塞性大腸癌に対する bridge to surgery の意義

1. 研究の対象

当院外科で 2016 年 7 月から 2019 年 7 月までに腹腔鏡補助下 S 状結腸切除術を受けた方

2. 研究目的・方法

閉塞性大腸癌に対する大腸ステント (CS) 留置の有用性は報告されていますが、CS 留置後の腹腔鏡手術の妥当性・安全性については未だ議論的となっています。今回、当院で施行した定形化された S 状結腸癌手術において、CS 群とその他の予定手術群を比較し、治療成績等について検討します。

3. 研究に用いる情報の種類

以下の情報を利用します。これらは全て通常の診療で実施された範囲で取得した情報です。

患者基本情報 …年齢、性別、身長、体重、入院日など

治療開始前情報 …併存既往疾患、栄養指標評価値、病理診断の有無とその採取法など

手術関連情報 …手術日、手術術式、手術時間、出血量など

周術期観察項目 …合併症の有無、再手術の有無など）、

治療経過追跡 …血清 CEA・CA19-9 値、化学療法等の有無、再発の有無、転帰

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院

熊本市南区近見 5-3-1

TEL：096-351-8000（病院代表）

研究責任者：外科 高森 啓史

以上